

令和6年度（2024年度） 今治北高校大三島分校 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理探究	学年	第3学年	類型	Ⅱ型理系
単位数	2単位	教科書	新詳 地理探究（帝国書院）				
補助教材							

学習目標	地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。
------	--

学期	月	単元	学習内容・単元の目標	定期考査	
1学期	4月	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 序節 地球環境と人間 1節 地形	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。	中間考査	
	5月	3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題 第2章 資源と産業 1節 農林水産業	・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。		
	6月	2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題	・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。		
	7月	5節 工業 6節 第3次産業	・資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。		
2学期	8月	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。	中間考査	
	9月	2節 観光 3節 貿易と経済圏 第4章 人口、村落・都市 1節 人口	・人口、都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。		
	10月	4節 都市・居住問題 第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題	・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。		
	11月	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 序節 地域の考察方法 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN諸国 4節 インド	・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解する。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。		
3学期	12月	5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7節 EU諸国 8節 ロシア		期末考査	
	1月	9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1節 持続可能な国土の在り方 2節 持続可能な日本の国土像の探究	・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。		学年末考査
	2月	・自宅学習			
3月					

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義型の授業を中心としたうえで、動画や画像などの資料を活用する。</li> <li>・グループワークやペアワークの時間をとり、生徒が主体となって考える時間をつくる。</li> </ul>
-------	---

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
	<p>地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。</p>	<p>地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p>	<p>知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査		